

鈴木章本学名誉教授ノーベル化学賞受賞

本学の名誉教授である鈴木章先生が2010年ノーベル化学賞を受賞されたことは記憶に新しいところです。

鈴木先生は昭和35（1960）年に本学理学研究科博士課程を修了後、平成6（1994）年のご退官まで本学の教員として主にホウ素化学の研究に従事されてきました。

中でも昭和54（1979）年に報告されたパラジウム触媒を用いる有機ホウ素化合物のクロスカップリング反応は有機合成化学のみならず、触媒化学や材料科学などの広い分野に多大な影響を及ぼした研究であり、今回の受賞理由となった"Suzuki coupling反応"として広く世界的に認知される新たな研究分野を開拓されました。反応は広範な一般性と実用性を有しており、医薬品を含む数々の生理活性天然物合成に利用されています。

受賞後の先生は、各方面より講演の依頼が絶えず、全国各地もしくは海外にも足を運ばれ、多忙な日々を送っておられるとのことでした。

なお、本学総合博物館では受賞を記念しまして、鈴木-宮浦クロスカップリングの解説や記念メダルレプリカ、鈴木先生が実際に使用されていた机などを常設展示として公開しています。



「総合入試」制度の導入

本学は、平成23年度から新しい入試制度、「総合入試」を導入しました。「総合入試」とは、まず文系もしくは理系の総合入試枠で受験し、本人の希望と1年次の成績によって学部に移行できるシステムです。入学後の1年間は、全員が「総合教育部」に所属し、幅広く教養科目や基礎科目を学びます。

これまでの入試方法では、夢と希望を膨らませて入学したものの、入学後に入った学部での勉強と自分の希望とのギャップに悩んだり、後悔する学生が少なくありませんでした。この「総合入試」では、入学後に進学する学部をじっくり考えてから学部に移行することができるため、学部選択のミスマッチを解消できることが最大のメリットといえます。

また、本制度を補完するものとして、アカデミックサポートセンターを設置し、経験豊かな教員が学生の進路等について総合的にアドバイスを行うなど、充実した学生支援体制を整えています。

なお、従来からの「学部別入試」も並行して行われており、平成24年度の「総合入試」の募集人員は、総募集人員2,485名に対し1,127名（約45%）となっています。

※本学の入試制度の詳細については本学HPよりご覧になれます。

